

棚田生かしまちおこし

佐賀市

棚田の保全や利活用についての研修会が22日、佐賀市のメートプラザ佐賀であった。食料生産にとどまらない、治水や里山の景観形成、生物多様性など棚田が持つ多面的機能を再確認し、観光や地域住民の交流などに棚田を生かす方法を考えた。

水俣「愛林館」 沢畑館長が報告

研修会は、棚田のある地域の代表者のほか、県と県内17市町などで行く「さが棚田ネットワーク」が主催。各団体の代表者ら約50人が参加した。

研修会では、熊本県水俣市の中山間地・久木野地区でまちおこしに取り組む「愛林館」の沢畑亭館長が「きれいな水や土、空気といった森や棚田がもたらす恵みは市場経済の上では評価されず、不当に安い」と指摘。街の内外と交流する「エッジ」



棚田を生かした地域づくりを語る「愛林館」の沢畑亭館長＝佐賀市のメートプラザ佐賀

(村上大祐)

稼ぐ仕組みづくり訴え

棚田の恵みを支えるお金を稼ぎ出す仕組みづくりを訴えた。沢畑さんは「愛林館」を拠点にしたタイカレーが名物のレストラン運営や、そば・うどんづくりの体験イベントの取り組みを紹介した。また、家庭料理を自慢し合うコンテストや、月2回、昼食を安価な500円で提供する「ふるさとレストラン」が「家に閉じこもりがちな独居高齢者が外出するきっかけづくりになった」と報告した。

人口減や高齢化、限界集落の問題について沢畑さんは、「人口減イコール悪という固定観念から目覚めるべき」とし、「人口減社会の先進地として、少ないお金で豊かな暮らしができる地域をつくらう」と呼びかけた。

佐賀市

